

保育者養成校の学生の伝承遊びの経験について

2019年、2022年実施アンケートを通しての考察

About experience of traditional play of students of Kindergarten teacher training and Nursery teacher training: Consideration through the questionnaire conducted in 2019 and 2022

飯泉祐美子(帝京科学大学)

Yumiko Iizumi

(Teikyo University of Science)

(キーワード)

保育者養成、伝承遊び、

1. はじめに

本発表は2019年1月に保育者養成校で実施した「伝承遊びの経験について」の定量調査アンケート及び訂正調査アンケート(対象者の大半は1998年～1999年生まれ)と同様の内容のアンケートを、2002年6月に同じ保育者養成校の大半が2001年～2002年生まれの学生に対して実施したものである。

2. 経緯と課題

以前より保育内容表現の授業内で伝承遊びを取り上げると「知らない」「はじめてきた」「はじめてやった」などの声が聞こえていた。当然そのような学生達は授業中では教科書を片手に表現活動を行い、授業者側からすると「本当に楽しく遊んでいるの?」と思ってしまうような滑稽な光景であった。また別の学生の発言からは「伝承遊びや、わらべうたを保育者は知らないといけないと高校の時の先生に言われた」などもあり、保育者を養成する側としてとても不思議な気持ちになった。そのため2018年後期履修学生(おおむね1998年～1999年生まれ)を対象に実態を把握してみるという研究を実施した。

本発表は現在の履修者(おおむね2001年～2002年生まれ)はますますその状況がエスカレートしているように感じる。そのため、同様の調査を実施

し、当時の学生との共通点や相違点などを通して、今後保育者養成では伝承遊びをどのように位置づけ、どのように考えていくべきなのか、考えるきっかけにしたいと思い取り組んだ。

3. 調査方法

定量調査では「知っている」「知らない」の数値、定性調査では「伝承遊びについてのイメージ」「何をどのように知っているのか」を明確にした。

<定量調査>

これまで遊んだことがあったり、知っている遊びに○をつけてください。

- ・なかなかホイ
- ・通りゃんせ
- ・はないちもんめ
- ・かごめかごめ
- ・ずいずいずっころばし
- ・あぶくたつた
- ・あんたがたどこさ
- ・お寺の和尚さん
- ・おしくらまんじゅう
- ・なべなべそこぬけ

<定性調査>「伝承遊び」という言葉をきいて、あなたは頭の中に何かを思い浮かべましたか。何か思い浮かべた場合は内容を記入してください。何も思

い浮かべなかったときは、「なし」と記入してください。また○をつけたものに関しては「遊んだ時期」「誰と遊んだ」「遊んだ場所」「または知った場所」も記入してください。

3. 調査対象者

《2022年》指定保育士養成課程・教職課程履修の4年制大学の3年生および4年生 84名

《2019年》指定保育士養成課程・教職課程履修の4年制大学の2年生 51名

4. 結果と考察

《定量調査の結果》

《2022年》

第1位 はないちもんめ

第2位 かごめかごめ

おしくらまんじゅう

第4位 あんたがたどこさ

第5位 お寺の和尚さん

《2019年》

第1位 はないちもんめ

第2位 かごめかごめ

第3位 おしくらまんじゅう

第4位 あんたがたどこさ

第5位 ずいずいずっころばし

《定量調査から読み取れること》

いずれの調査も、定番の「はないちもんめ」「かごめかごめ」以外は一定数の知らないという学生がおり、代表的な伝承遊びを取り上げているにもかかわらずこの状況であることから、伝承遊びが身近なものではないと考えられる。

全員が知らないというものが存在しているにもかかわらず、全員が知っているというものが存在しない。このことは伝承遊びの伝承についてその伝承について考えていかなければならないのではないのか。

「知らない」＝「やったことがない」「見たことがない」の構図がうかがえる。

《定性調査の結果》

発表会場にて、グラフなどの詳細を示す。

《定性調査から読み取れること》

(1) 遊んだ年齢

いずれの調査でも、幼児期が最も遊んだ時期であった。「あんたがたどこさ」「おしくらまんじゅう」などイメージとして子どもっぽさの少ないものは年齢が大きくなってからも遊んでいた。

(2) 遊び相手

いずれの調査でも、組織（保育所、幼稚園、学校、学童）に属する友達と遊ぶことが最も多かった。近所の友達と遊んだ経験は多くはなかった。反面、家族と様々な遊びを経験している学生もいた。これは家庭による差ではないか。

(3) 遊んだ場所

いずれの調査でも、組織（保育所、幼稚園、学校、学童）に属する場所で遊ぶことが多かった。近所という回答は見られたが伝承遊びを継承していくような場所はもはや組織に属する場所にかかっている。

大勢での遊びが可能な伝承遊びは地域に根付かせることはできないか。

5. 最後に

飯泉（2019）にて「伝承遊び」は「学びの3本柱」や「保育内容の5領域」に通じるものがあることを述べているが、よき保育と「伝承遊び」の伝承も通じるように思う。

保育の現場で保育者は、子どもたちに単に遊ばせる為に伝承遊びを取り扱うのではなく、その価値を知りつつ、理解しつつ取り扱い、伝承していくことの一端を担っているという自覚を持つ必要があるのではないか。

本研究の調査は3年足らずの時差のある調査であったため、微妙な差異は見られたものの、予想ほどの大きな差異は見られなかった。しかし、将来さらに時を経た際に、同一の調査を実施した際の結果は、本研究の2019年、2022年と差異が現れるのではないかと予想される。

「伝承遊び」の保全ということも視野に入れて研究を進めたい。